

## フロアスタッフ紹介

めざせ、みんなの「マイ・ミュージアム」!

博物館にぎっしり詰まっている身近な自然の情報や、先生方がこっそり知っている自然科学の不思議を、展示ガイドなどを通じ皆さんにお伝えしたいと日々奔走しています。

資料の揃ったひとくサロンをはじめミニイベントなど、ひとくに通う「楽しみ」を準備してお待ちしております。



戸倉さん 宮里さん 阿部さん 横田さん

**とくらさよこ**  
**戸倉香子**: 毎月、私たちの企画したイベントを掲載した「うきうきカレンダー」を発行しています。いつもポケットに入れて予定をチェックしてね。

**みやさとれいこ**  
**宮里玲子**: 毎週土曜日はアースシアターで「フロアスタッフおすすめビデオ」を上映するよ。昆虫や花のお話をアースシアターの大きな画面で見よう。

**あべのこ**  
**阿部紀子**: 博物館を出てすぐの小さな畑に、個性いろいろ「サツマイモの仲間たち」を植えてみます。実りの秋までじっくり育ててみんなでほくほく食べましょ。

**よこたかな**  
**横田佳奈**: 君はいくつナゾを解くことが出来るかな!? 「共生の森」を探検しながらジャングルに生息する動物や植物の不思議を一緒に解決しよう!!

## ミュージアムティーチャー紹介

総合的な学習・環境学習等の支援や展示解説・ミニセミナー・ミュージアムスクール・ミュージアムハイスクールを通じて、自然のすばらしさや最新の話題に触れてもらい、「博物館にきてよかった」という来館者の笑顔に喜びを感じている毎日です。葉脈標本のしおりづくりは大人気です。学校に講師としてでかけるときもあります。

**あだち いさお**  
**足立 勲**: 子どもたち生まれ!! 「何故だろう? 不思議だな?」と思ったら、一緒に考え、挑戦しましょう。魅力たっぷりの昆虫を追いかけて10年、やめられませんね。よろしく。

**はせがわたいち**  
**長谷川太一**: 「アヤメの仲間では、このシャガだけが冬も葉は枯れません。また種子ができないのにどうして広がっていったのかな」「自然界の生き物は大切な役割を持っていて、役に立たないものなんて一つもありませんよ」

**もうりとしはる**  
**毛利敏治**: 永年の小学校、中学校の理科教育、花の栽培や子どもたちとの交わり合いを通じて、学校教育の中のひとづくりの大切さを知りました。「園芸クリニック」「花の栽培」が得意です。博物館では環境学習に取り組みたい。



足立先生

長谷川先生

毛利先生

## 新入館員紹介



**しもこし てつや**  
**霜越 哲哉**  
(館長補佐兼総務課長)

森の母「ブナ」の懐に抱かれるのが好きなオジサンです。「ひとくはく」は以前から、私にとって癒しのもとであり、学びの場でありました。そこで勤務できることは喜びであり、恩返しのためか来たのかも知れません。



**ほんだ たける**  
**本田 毅**  
(情報管理課)

新しくなった「ひとく情報システム」が本格稼働する、この4月からお世話になることになりました。この情報システムを通して、生涯学習社会における学習機会を拡大し、情報提供サービスの充実、学社融合の視点に立った学校教育支援などをすすめていくよう努めていきたいと思っています。よろしくお願いたします。



**こじまひろゆき**  
**小島弘幸**  
(生涯学習課)

県民政策部県民文化局生活創造課より生涯学習課で勤務することとなりました小島です。初めての社会教育施設での勤務となりますが、どうすれば県民の皆様へ博物館への興味を持っていただけるかを考えながら広報等の仕事に取り組んでいきたいと思っています。



**こじまふみこ**  
**小島史子**  
(総務課)

4月から総務課で勤務することになりました。私自身、博物館が好きなので、博物館で勤務できることを嬉しく思っています。至らない点も多々あると思いますが、来館者の方々に気持ちよく展示を見ていただけるよう、頑張りたいです。よろしくお願いたします。

## 展示の周辺

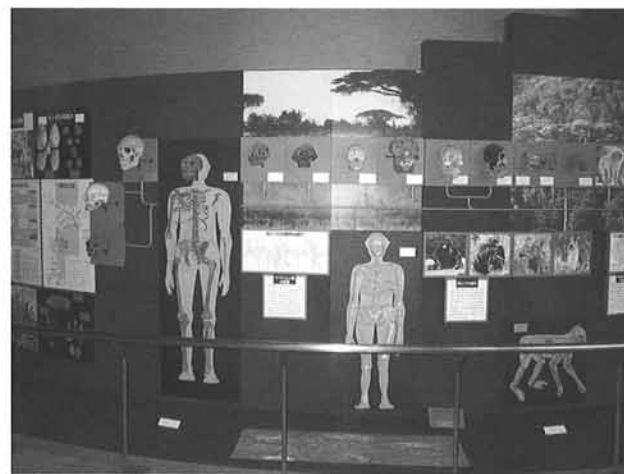
# 古人類化石レプリカ

人と自然の博物館の一階には、古人類(太古の人類)やその他の霊長類(サルの仲間)化石のレプリカを使った人類進化の展示があります。レプリカというと、「にせものか」という人がいますが、どれも実物の化石からシリコンゴムで精密に型をおこして作ったもので、化石の形や大きさは正確に再現してあります。それでも、やはり実物の持つ存在感にはかないません。実物の人類化石を展示することは不可能なのではないでしょうか?

人類は500~700万年の間にアフリカで出現し、約180万年前になって始めてアフリカの外へ進出したことが化石の証拠から明らかになっています。このように人類の進化の大部分はアフリカで起きたので、どうしてもアフリカ産古人類化石が展示の主役となります。60年代以来、アフリカでの古人類化石の発掘調査は国際チームによって行われていますが、古人類化石はそれが発見された国の博物館に収蔵されており、原則的に国外持ち出しは禁止です。ですから、こうした古人類化石の実物を見ようと思ったら、ケニア、タンザニア、エチオピアなど古人類化石が発掘された国々に行かなければなりません。

ではこうした国の博物館に行けば、誰でも古人類化石の実物を見ることが出来るのかというと、答えは否です。古人類化石は専用の収蔵室内に設置された耐火金庫の中に保管されており、化石を手にとりて見る事が許されているのは保存・修復技術者と研究許可を取得した古人類学者だけです。このため古人類化石が収蔵してある博物館でも展示室には実物でなくレプリカが展示してあります。

現在の地球では人間は極めてありふれた動物ですが、数万年前以前の地球では人間はまだ少なく、そのため他の動物の化石に比べて古人類の化石はほんのわずかしか地層中に残されていません。それでも、アフリカではほとんど毎年新たな古人類化石が見つかりますが、これは動物の化石がごろごろしているようなところで、化石を見つける特殊な才能をもつ人たちが探しているから発見されるのです。このように希少な古人類化石はわれわれの過去を教えてくれる貴重な情報源ですので、単なる展示品にするよりも、人類進化に関する研究材料として最大限利用したほうが、結局はすべての人にとって得策となります。



人と自然の博物館一階の古人類・霊長類化石レプリカ展示

しかし、本物は無理であっても、それに限りなく近いものは今後の展示にほしいところです。いま展示してあるアフリカ産古人類化石のレプリカは、色づけなどはあまり丁寧でないため、どうしてもニセモノ感がつよいのですが、日本には、実物の隣に並べると、化石を発掘した本人でさえどっちが本物か迷うくらい本物そっくりのレプリカを作る職人さんがいます。こうしたすぐれた職人技によって古人類化石レプリカが作成されるようになったら、実物を見ているのと変わらない古人類化石の展示が可能となるでしょう。

(自然・環境評価研究部 三枝春生)

### 編集後記:

今号は6月から9月まで開催される「企画展川の流れ」の特集としました。展示を見るときに参考にいただければ幸いです。

(シンクタンク事業室 三枝春生)

ハーモニのバックナンバーは博物館のホームページ [http://hitohaku.jp/publications\\_index.html](http://hitohaku.jp/publications_index.html) でご覧いただけます。

### 人と自然の博物館ニュース 「ハーモニー」No.46

平成16年7月30日  
兵庫県立人と自然の博物館  
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目  
TEL (079) 559-2001 (代表)  
FAX (079) 559-2007

博物館ではインターネット上でも情報を提供しています。  
URL <http://hitohaku.jp/>